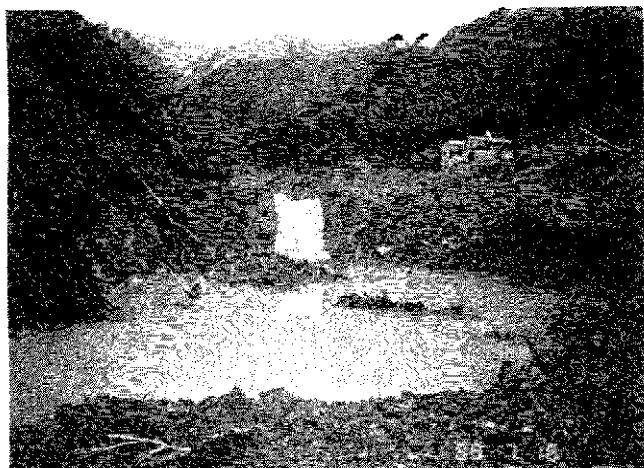
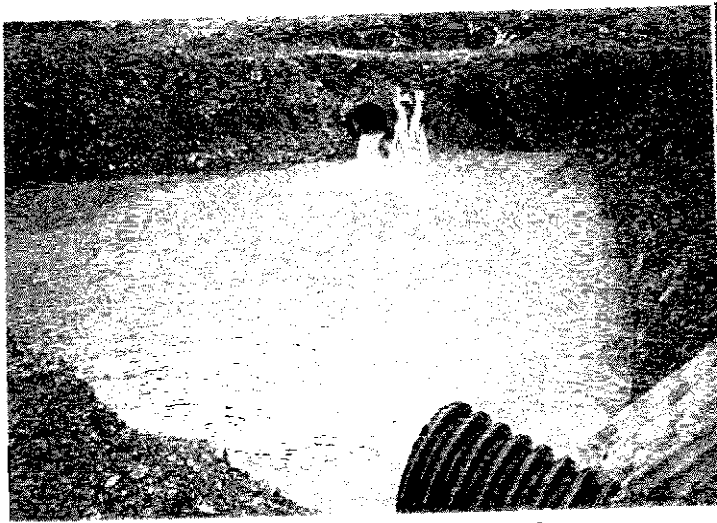


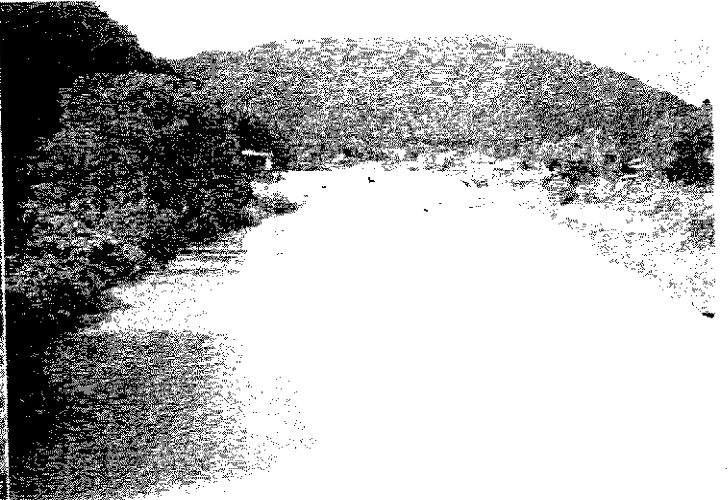
旧スキー場の工事



スキー場入口付近と沈殿層



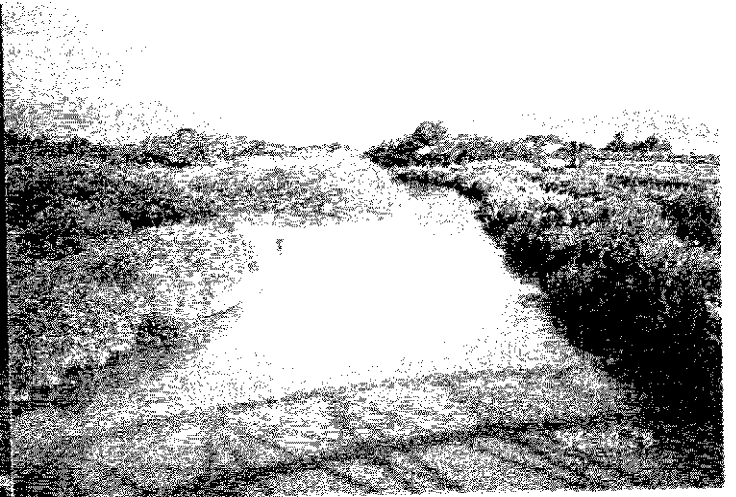
スキー場沈殿層



高時川頭首口



スキー場沈殿層



姉川高時合流地点



スキー場沈殿層

◇ 「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者名も記入下さい)	夏秋区長 新川 佳正
(ご意見・ご提案等)	
<p>兼ねてより蔵持区長会から、名張川河川（蔵持地域）改修整備要望書を提出してきました。</p>	
<p>現在、木津川の上流にある私たち名張市夏秋地区では狭い河川幅で現在は夏秋橋～旧夏秋橋（撤去済）の間は堤防がありません。その都度、今までの幾つもの台風には家屋の浸水や、農地や道路の冠水等の住民の生活や財産に大きな被害を受けてまいりました。又、夏秋橋下流に至っては、山が河川に突き出し河川幅が狭くなっているため、濁流がせき止められ夏秋地内の田畑に幾度となく被害をもたらしてきました。</p>	
<p>里地域の河川改修堤防の改修に伴い、夏秋地域内は危険度が多くなります。平成 11 年度以降市当局に幾度となく要望書なり話し合いを持ってまいりましたが、地区民の要望にかなっておりませんが、一刻も早い河川改修をお願い致します。</p>	

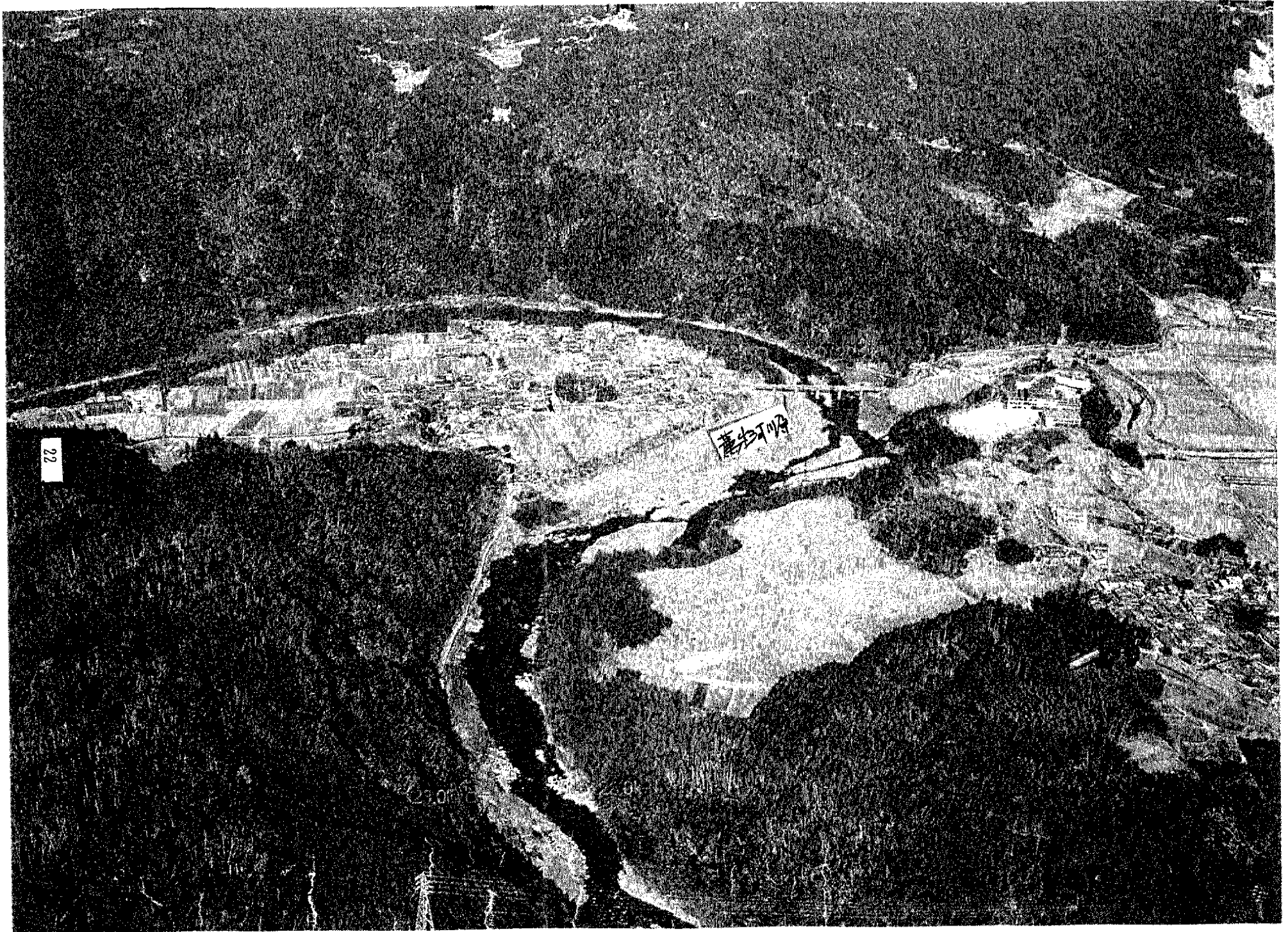
◇「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者名も記入下さい)	赤目町丈六区 区長 山崎 東洋
(ご意見・ご提案等) <p>1.宇陀川・滝川(赤目川)合流点の河川改修を！！</p> <p>私たち赤目町丈六地区は、淀川水系の上流、木津川、名張川の上流宇陀川、滝川(赤目川)の右岸に位置している。太古の昔より、時に猛威をふるう台風水害に悩まされ、時に流域をうるおす恵みの水となり、母なる川、宇陀川、滝川と共に生きてきた。特に、宇陀川と滝川の合流点は、S34年9月の伊勢湾台風時には、宇陀川の水ながきつく、赤目町丈六側の水当たり部分では農地が流失し、大きな被害をもたらした。</p> <p>宝生ダムが出来ているものの台風増水時には、大量の水を放流し大変に危険である。下流の相楽地区の河川改修は完了しているものの、合流点では何の補強もされていない。一刻も早い改修をお願いしたい。</p> <p>2.滝川(赤目川)河川敷に“親水公園”を！！</p> <p>丈六橋から約30m下の右岸は、私たち子どもの頃(戦前)からの遊び場であった。水の流れが蛇行し、割りに広い河川敷となっている。有志により草花等も植えられているが、遊具等を設置、整地するとすばらしい公園となります。学校週休2日制完全実施の今日、公園の設置は、PTAは勿論、地域住民の全員の悲願であり、是非とも実現をお願いしたい。</p>	

◇「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

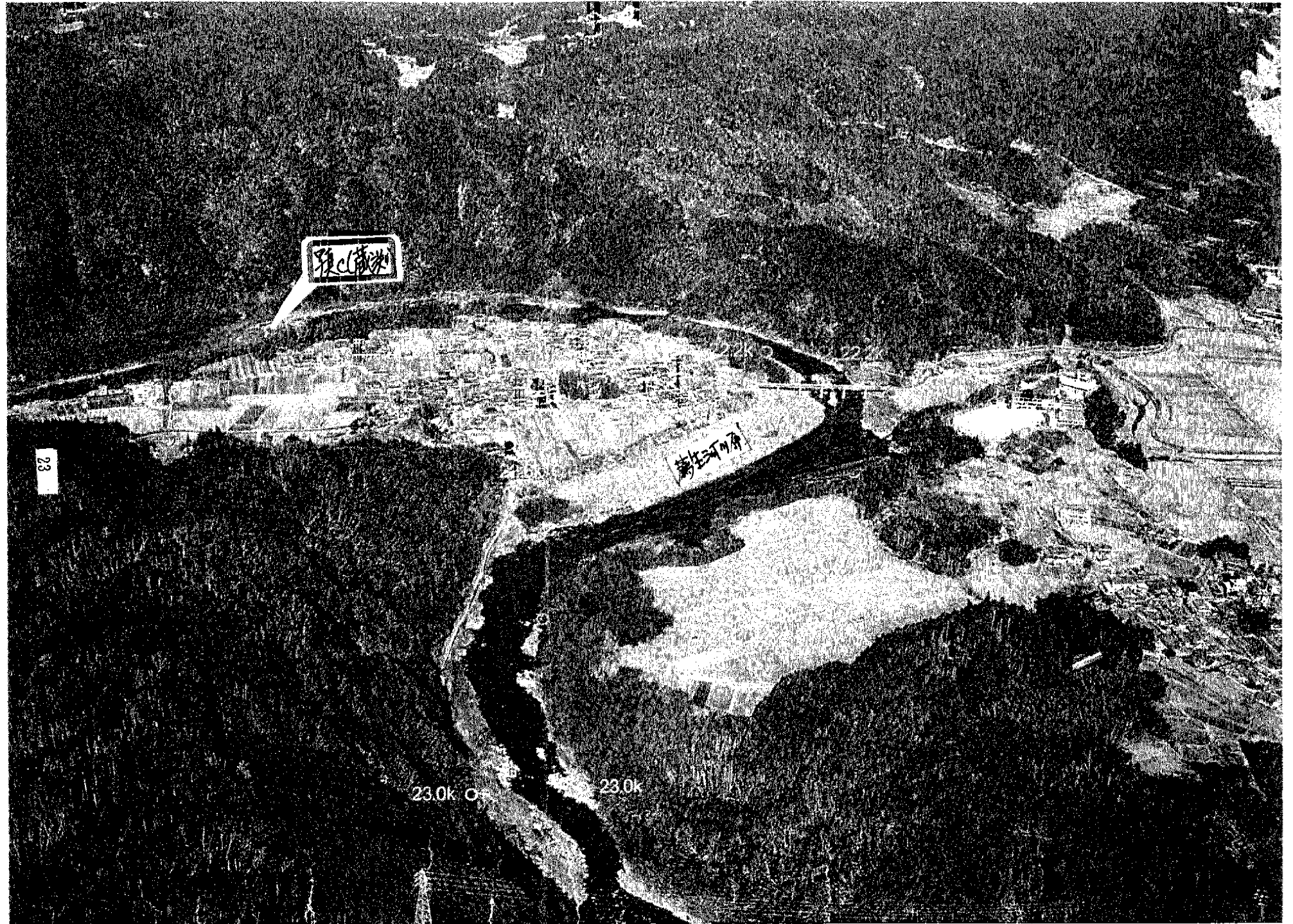
<p>名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者名も記入下さい)</p>	<p>名張市薦生区 区長 中川 光雄</p>
<p>(ご意見・ご提案等)</p> <p>私達の生活している薦生地区は、淀川水系の上流にあたる名張川の下流に位置しています。この地区は、伊勢湾台風を始めとして、幾多の水害に見舞われ、家屋の浸水や、田畑の冠水などを経験して参りました。</p> <p>しかし、近年室生ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダムの完成により洪水の災害は無くなりました。しかし幾多の洪水のもたらしたものは、川の流れを変え、見るも無残な姿に変わり、川は荒れ放題になっています。</p> <p>川の中に島が出来、雑草、雑木、雑竹が茂り、河川敷を台なしにしています。薦生河川敷の草刈りも木津川上流事務所(ジャスコ前)(寺田課長)に何度もお願い致しましたが、断われら、仕方なく、私達村(凶)の人達で草刈りをして、今年の桜の花見が出来るまでこぎつけました。</p> <p>要望事項①薦生河原川を公園にしてほしい。</p> <p>②川中島を取り除く工事をしてほしい。</p> <p>写真A・・・写真Bのように工事</p> <p>③写真C地点の川の流れを変える薦生河川の下流部、蔵淵の改修工事</p>	

写真A (現在の写真)



22

写真 B (河川改修後の写真)



◇「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者名も記入下さい)	長坂区長 岡松 道男
(ご意見・ご提案等) 景勝地赤目四十八滝を源流として当地域を流れる滝川は、ここ数十年余りの間に洪水による土砂の堆積や生い茂る木々など、川の姿が大きく様変りをしてしまいました。この滝川とともに形成されてきたむらとして、その立地環境から河岸に広がる貴重な唯一の農地や民家は、集中豪雨や台風時など常に災害の危険性にさらされてきました。近年、上流部の一部では砂防事業により整備されましたが、計画なされた区間はその後、継続的に整備がなされないまま今日に至っています。こうしたことから、度重なる出水により、特に農地や民家が連なる下流部の約1Kmの区間では護岸の洗掘が進みつつあり、また、河岸に沿って走る地域にとっては、重要な生活道路であり観光道路である赤目滝線も災害の危険性をはらんでおります。私たちの区では、昨年からは河川内に繁茂する雑木や流木などによって、流れを阻害している箇所も多いことから、出来れば昔の川をとりもどそうという気持ちから、滝川美化ボランティアを結成し、区民総出で除草作業やゴミ撤去などの美化活動に取りくんでいるところです。住民が安心して暮らせ、こどもたちが水辺や河川内でおもいきり水と親しむことの出きるふるさとの川として、また、上流に位置する地域として、後世にまもりつたえるためにも、私たちの地域の環境にあった安全な護岸の整備を早期に願うものです。	

◇「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者名も記入下さい)	赤目町柏原区長 井上 勝則
(ご意見・ご提案等) 我々の生活している、赤目町柏原地区は、豊かな自然に恵まれた、農村地域であると共に、上流には、赤目四十八滝があり、観光客も、四季を通じ多く訪れます。赤目滝までの道中の一級河川滝川の風景も環境客の目を楽しませております。特に風呂屋橋付近の風景は、すばらしく、アマチュア写真家に特に喜ばれている場所ですが、近年は土砂が多くたまり雑草が生い茂り遠くから訪れてきた観光客の目を楽しませる事も出来ません。 又、我々住民も大雨時には、水害に見舞われ、特に市道木戸口線や田畑の冠水、民家（特に2戸は）毎年2~3回床下浸水のおそれがあります。 最近では生態系の保全の重視で、現に風呂橋の下流では改修の為の用地の買収が経っているにもかかわらず、生態系の保全で、今だに改修されないと聞いております。 自然の保全、生態系の保全も大切ですが、我々住民の生活を守る事は大切です。その両方を意識し、風呂屋橋から木戸口橋までの間の改修をお願いします。	

高橋 利治氏

淀川河川敷公有地（右岸柱本地先）利用について。

広大な河川敷公有地については、本来、治水そして自然環境保護と又は有効利用、その方法等いろいろの視点から議論の多いことと思うが、全国的に見ても例の多いパブリックゴルフ場としての利用など民間の活用を積極的に使って、大多数国民の福祉ニーズに応える意義を評価検討し対応したらよいと思う。私は地元住民の一高齢者として具に、日常の状況を観察して居て、ここに次の諸点を強調して置きたい。

- 一、淀川河川敷という公有地は広大で然も都市近郊に在る貴重な広い空間である。
- 二、柱本地域に昔から居住する高齢者として、ここは子供のとき、みんなで思う存分遊び、走り廻った懐しい自然一杯の広い広い場所であった。
- 三、戦中は公認で当時の食糧不足を補うために一役買って芋畠として利用された。
- 四、戦後、柱本出身で（元）通産大臣、経企庁長官などを歴任された高橋達之助氏（故人）の推奨で乳牛の放牧場としても活用された。
- 五、昭和三十年代に入り京阪ゴルフが進出することになり、乳牛の放牧と仲良く共存するまことに長閑な牧歌的風情のあるゴルフ場時代があった。
- 六、その当時ゴルフ場進出は地元農村の女性雇用に繋がり、それ以来現在に於ても、この地域居住者の雇用には常に意を用い、貢献している。その意味でも地域に密着した存在である。
- 七、今や、ゴルフは健康的でスッカリ大衆化した国民的野外スポーツとして老若男女に親しまれている。そして数あるゴルフ場の中でも京阪ゴルフは大阪近郊の中でも地理的に近く極めて便利。多くの利用者に親近感をもって愛されていると云えよう。
- 八、比較するのは些か憚るが隣接する国営の鳥飼上、三島江両公園は野球、テニス、サッカー、ラグビーなど主として運動公園としての機能を果たしており、市民の憩いの場として整備され歓迎されているのであるが、土、日、休日でも年間を通じてその利用は必ずしも高いとは云えない。まして週日は皆無に近い。それでも管理人の常駐パトロールを必要としている。相当な公費負担に鑑み、利用促進に工夫を要するのではないか。
- 九、それに比べ、京阪ゴルフ場は、昨今の平日休暇増加の影響もあってか、ウィークデーでもゴルフを楽しむ人を数多く見る。更に一層利用者に喜んで貰えるゴルフ場をモットーに早朝割引サービス（七時半まで入場者対象）を実施するなどプレーヤーの側に立った制度を実施し、経営者始め従業員の早朝勤務を行って努力している。またこれに依って、長期不況に依るゴルフ下振れ不振傾向の好転に役立てている。
- 十、経営状況一般
経営者は公有地利用の意義重要性を充分認識し、運営については、その筋からの指導指示遵守に格段の留意を払いながら且、合理化、効率性も考慮した経営姿勢を貫いていることが客観的に認められる。

かりそめにも最も大事な本流の流水汚染の排りを受けないよう万全を期することは云うを俟たないところである。

十一、ゴルフ場の整備状況

概観的に極めて良好と云える。景観的にも良い。(立木など高さ制約の中で)経営トップの現場陣頭指揮もさることながらフェアウェイ、グリーン保守従業員の熱意もその作業振から感じられる。常にコースの改善整備に注力しコンディションは他のコースに優るとも劣らない。只コースが短いのが難点。これだけ広い面積をまさに民間活力の利用によって維持管理されている一つの好例と見るべきではないだろうか。

更に付け加えると、一例として右岸堤防の東側面(ゴルフ場の上北端三島江から下南端鳥飼上付近まで)の雑草刈りなど年間数回ゴルフ場側が奉仕的に実行し、保全に協力している。片方西側面は歳費で請負業者が実施している。

◇「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者名も記入下さい)	黒田区長 山崎 清司
<p>(ご意見・ご提案等)</p> <p>私たちの生活している名張市黒田区は、淀川水系の上流に当たる木津川の上流域にある名張川と宇陀川の合流地点の左岸にあります。</p> <p>この黒田区は、昭和34年9月の伊勢湾台風の時、宇陀川の堤防が決壊して洪水が押し寄せ、2人の尊い人命を失い、11戸の家屋が流出し、田畑は土砂で埋まり、木材や石などが散乱する甚大な被害を受けました。</p> <p>現在、名張川では新町や鍛冶町及び夏見方面での河川改修が行われていますが、対岸の私たちの黒田地区では未だ改修が行われておらず、しかも、名張大橋から下流の左岸は堤防が全く造られておらずに小竹ないし笹が生えている河川敷のままに放置されているので雨が4~5日降り続くとひたひたと浸水して来るか、排水溝へ水が逆流して水田の一部が冠水するという現状です。名張川流域で唯一の堤防がない地域ですので黒田区民の不安は長雨のたびに募ります。そして先の台風の悪夢が蘇ります。このため、私たちの不安解消、即ち、住民の生命と財産を守るための一刻も早い現場踏査と河川改修を心からお願い申し上げます。</p>	

◇「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者名も記入下さい)	瀬古口区長 籠井 紹
(ご意見・ご提案等) <p>(1) 三ヶ村井堰水利組合の水路を利用し、農業用水は勿論、特に瀬古口地区の場合、防火用水として緊急時の消化活動にかかすことの出来ない水源でもある。又多くの家庭の浄化槽の排水路として活用されているが、水路の形態は下流側程狭いので、大雨や台風時には排水がうまくさばらず、水路から水があふれ、床下浸水の家屋も時折発生しているのが現状である。今後は排水の機能も一層充実した水路への改修が望まれる。</p> <p>県の予算が、宮川水系の河川と比較して、木津川水系の予算が少いといったことも聞き及んでいます。</p> <p>河川の改修や整備にあたっては、本流のみではなく、本流に流入する支流水路についても、ご検討を賜われればと存じます。</p> <p>(2) 青蓮寺川の河川改修を青蓮寺ダムのところまで延長して行って頂きたいと考えております。三ヶ村水利組合の水路は、主として農家が維持・管理をしていますが、必ずしも農家だけが水路の受益者という訳でもありません。水路の維持・管理についても、積極的なご検討を賜りたく存じます。</p> <p>(3) 瀬古口地区と名張市との間には、昭和 51 年 6 月 10 日締結された「名張川河川改修に関する覚書」が存在します。</p> <p>その第 5 条では、「左岸近鉄と橋から新町橋間の計画標準断面及び堤防の高さ等については、特殊提第 6 案を原案として、瀬古口住民と話し合いを続行し、住民参加の上、実施計画をすものとする」と定められておりますので、この覚書の遵守を賜りたく存じます。</p>	

2002/6/6

FAX

竹下 秀一氏

6月4日開催されました「第14回琵琶湖部会」を傍聴させていただきました。

それに基づき、下記に滋賀県民であります私の意見を、述べさせていただきます。

1. 部会の様子が、委員が個々の発言をされておられ、到達目標の合意形成がなされておらず、シンポジウムでのパネルディスカッション的存在に見受けられました。河川法第16条2項に基づく委員会である事を考えれば、その社会的影響は大きいものと言え、部会での発言及び運営にはおのずと責任が伴うものと思われまます。
なぜなら、民主主義の基本は自由と責任は表裏一体であるからです。
2. 今回部会を傍聴させていただき最も心配になったことは、地域住民等との対決構造の危惧です。当日の部会には、地元町長、助役、対策委員長、県議の4名の地域住民を代表する方々が、ダムの必要性や今までの歩み等について切実に述べておられました。この時期にあっては、当然の意見だと思いました。本来的には、最も地域住民に近い部会だと思っておりましたが、4名が帰られたあとの一部委員の発言には、何処まで地域住民のことを真剣に考えているのか疑いたく言葉が聞かれました。このような状況が推移すれば、理屈はともかく感情的に委員会と地域住民・行政等との予期し得なかった新たな紛争が危惧されるところであります。河川法で求めている学識経験者の意見聴取とは、最終目的は、計画段階で判断に迷う地域住民等への分かりやすい適切なアドバイスではないかと私なりに理解している処です。決して、これまで幾多の苦難の道のりを歩んでこられた地域住民の方々を不安に落とし入れてはなりません。
3. 6月5日付けの京都新聞には早速「建設是非めぐり激論も」と書かれています。多分、地域住民にとって大きな不安材料となってこの今、混乱している事と思えます。委員の方々に置かれましては、その影響を予測したうえで行動していただきたいものとする処であります。
4. 大規模公共工事の完成をみるには、政策面と技術面とが関わってくると思えます。政策的には行政機関、議会等がありますし、技術面では本委員会等が該当するのかなと思っております。法治国家である以上、お互いに尊重しあわなければなりません。私は、委員会とは関係する地域住民等に対して、公平な立場での「21世紀に相応しい環境等に配慮した川づくり」の技術面を主体として、その時に適した議論する場と思っております。部会での、これからの歩むべき道筋の合意形成を、市民に分かる形で早期に示して頂きたく望むものであります。
5. 部会を傍聴して思いましたことは、採決は無く、1人の意見がそのまま部会の意見となっているように見えたことです。開かれた部会を目指す以上、市民に分かる形でのルール作りが必要かと思えます。
6. 河川法が変わっての新しい試みであり、試行錯誤での部会であろう事は十分理解できるところでありまして、そのご尽力には感謝申し上げるところであります。どうか本委員会が広く市民から信頼され、我国における良い先例となるよう期待を込めて願っております。

以上

◇「淀川水系河川整備計画」に関する「淀川水系流域委員会」への意見・提案等

名前 又は 団体名 (団体の場合は代表者も記入下さい)	錦生地区まちづくり協議会 会長 谷川 健
<p>(ご意見・ご提案等)</p> <p>私達が住む名張市錦生地区は、まだ豊かな自然が残っている地域です。そんな中、錦生地区まちづくり協議会を結成し、地区の道路や河川、公園などの施設、更には生活、文化、福祉といった暮らしに関する議論を重ね、地域のまちづくり計画を策定するに至りました。</p> <p>その結果、宇陀川が占める役割は極めて大きく、今後の河川の改修や整備にあたっては、豊かな自然を活かした水と人がふれ合う水辺の空間としての河川と、防災機能の充実とが両立する整備をお願いします。</p> <p>1、錦生地区まちづくり草案より</p> <p>(1) 現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇陀川の水質は昔に比べ低下し、今や汚れた川となった。 ・十分な堤防はなく、過去に水死者を出した黒田地区には、堤防のない場所もある。 ・川を考えることは、同時に山、木、里、人の関係を考えることとなる。 ・川に親しむ施設を構築し、地域の振興およびコミュニケーションを図りたい。 <p>(2) 具体的な構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名張川と宇陀川の合流点周辺を優先して堤防の充実を図る。 ・堤防の改修は自然を残す工法で行ってほしい。 ・河川公園の設置。(鹿高地区の熊岩井セキ周辺は景色もよく優先して行ってほしい。他に井セキは4ヶ所あり、熊岩井セキを含めた5ヶ所の河川公園と、黒田地区下流の大谷川と名張川合流点を中心とする河川敷公園の合計6ヶ所の公園を考えている) ・ウォーキング道路の設置。(黒田橋から矢川橋までの宇陀川) 	

南浜：虎姫両漁協よりの報告

6/4びわ湖部会による現地視察について、下流の漁協者よりの発言したかった内容。

余呉町山村開発センターにおける話の中で、村瀬正成さんの大音渡川の自然について、日本でも数少ない原生林が残っていることと、カジカ・あまご等についての報告と同時に大音渡川一帯をそのまま残したいとの提案であったが（残すことには大賛成）、平成12年以前の調査であるのなら、それ以後に同魚類と同自然が残っているか疑うところです。村瀬さんの発言にもあったように、スキー場の増設に伴う濁水が降雨の度に出水している状況の中で、現在その状態に樹木も魚類もあるとは思えませんし、また移転住民の方の意見にもあるとおり元々冬季の間の厳しさから言えば現状況下の日本の生活経済状態の背景から簡単に土地買収と移転の合意が出来たと思っています。移転地域に確たる産業基盤があった時は丹生ダムの土地買収はスムーズに行かなかったかと思われまし、同様にスキー場の増設にも200ヘクタールにも及ぶ用地の賃貸借が簡単に成し得たと思います。人里離れた豪雪地帯で、入口よりかなり奥に入った所での開発でもあり、山肌をめぐり削り取り、道とゲレンデを造る工事の真下に大音渡川があるのです。国及び県の許認可を疑うところであり、私どもの度重なる抗議に対しても答えにならないような回答を数回いただいた所でもあり、今回の現地視察においても拒否されたと聞き及んだところに大きな問題があると思っています。さらに、午後ホテル・プリオールにおける地元3人の有士の方々、さらに県議による説明の中で余呉町助役是洞氏・丹生ダム対策委員長三国氏の発言によるところの自然豊かなこの地元での話の内容において、豊かな自然を守っていこうとする時、何故200ヘクタールにも及ぶ山地を開発業者に貸したのか、ダムの直上流部になる所であり又上記に述べたとおり奥川並一帯における住民移転の時その一帯の原生林を伐採してチップの用材として売却して移転をしたこと（奥川並地区より上流部の山々一帯でその広さは相当なもの）は一見の価値があると思われまし。（私どもは、平成9年の台風通過後この地域の崩落状況の現地確認に行っており、原生林の伐採も確認済みです。又、その一方で県林務課による植林と砂防工事が行なわれている。）

又、ダム建設反対に対して推進論が強く主張されるのは当然と思われまし、豊かな自然を守っていくという言葉は彼等には当てはまらなないと受け止めます。スキー場に関しては旧スキー場（平成元年）の時にも濁水と山肌を削り取った土砂が国道まで流出した経緯等を忘今承知の中で今回の発言内容は私どもは理解しがたいものであります。さらに、ダム建設による環境問題より、山村過疎対策（町おこし・村おこし）の一環でダム建設に

よる観光資源の開発を望んでの推進なのか疑うかぎりです。さらに、橋本県議による地元の要請とその推進を手懸けた苦勞からすれば、何を今更なる発言と同時に、ここ数年来、年間50億円以上の予算を投じて来ながら今更やるやらない論議は大変な税金の無駄遣いであり、ここまで手を付けてしまったものは推進して行く上で如何に問題になるダム湖と環境問題を併せて、その周辺とを視野に入れ水質環境問題・工事等にも近代技術を取り込み水利・治水・洪水対策に生かしていくべきかと考えます。これから新しく着手するのであれば今の委員会での議論は当然でしょうが、すでに何百億円もの国費を投じてその過程でこの議論はちょっとおかしいと思うところです。（河川法の改正による委員会設置も心得ているつもりですが・・・）

さらに、北村高月町長の水利・治水・洪水についての話と、上は木之本からびわ町に至る姉川水系高時川のそのほとんどがその川の伏流水を飲料水としているところであり、水利問題に対してもその水利用計画に大きく期待を寄せるところであるとの内容であったかと思えます。が、こう言った発言とは裏腹に、この高月・木之本両町においては昭和55年より平成8年まで高時川阿弥陀橋下流100メートルの地点の河川敷の中で、それも高水敷を2,000平方メートル以上の広さにおいて古い家屋等の焼却場として用い、平成11年12月までにその焼却灰（6,000立方メートル）を処分したとのことであり、高月町長の水に寄せる思い（先般ピアザ淡海で開催されたびわ湖部会での同町近藤町議の発言内容）と高月町の現場で為されていることに大きな隔たりがあると思えます。川巾80メートル未満の高水敷の中に長さ70～100メートルの焼却場を造り焼却すれば、その後大量の降雨時この一帯はどのようになったか、委員の皆様のような聡明な方々であれば当然その答えは分かると思えますし、実際平成7～11年に200t/sの水が6回程流れています。急に狭くなった所（焼却場部）に、これだけの流量を想像していただきたいと思えます。また、私ども下流漁業権者は長年おかしなものが流れてくると言った疑念があった訳ですが、私ども下流と高時川頭首口の間は盲点となり見逃してしまっていたのも事実です。（濁水・ダム建設工事等の主なものが頭首口より上流で発生）

6/4、山村開発センターでの話の後、私どもはそのまま皆さん方とは別行動を取り、高時川支流杉野川の八草トンネルより滋賀県側金居原地区における道路工事の進捗状況と新しく着手するとの報告を受けていたのでその工事（別紙コピー）を見に行ったところです。平成13年8月21日の台風通過時、その工事による山の掘削等別添写真を参考にいただければ分かるとおおり、県の事業主体となっている工事の杜撰さは言葉に言い表わせるものではないくらいであり、度々起こる濁水流入の工事に私どもは大変苦慮しているところであり、そのやり方や同高時川水系における丹生ダム・関西電力・滋賀県の工事で

滋賀県が濁水防止に向ける工事は一番関心がないと思われます。(湖沼サミット：マザーレイクで言っていることは本当かと疑います。) 杉野川の一号橋周辺の山は山半分丸裸となっており直下流に杉野川が流れているわけですが、私どもがこの工事にクレームを付けてからバンドエイド程度のシートを充てただけであり、雨が降れば川は濁るものと思っっているのが地元の建設業者と滋賀県ではないかと思うくらいであります。

私どもはそれより高時川頭首口を見に行きました。(6/4高時川流量3.8 t/sの写真参照)、写真で見ていただくとおり流量の殆どが用水に取水されており、魚道からはほんの一しずく水が落ちているだけであります。高月町長の伏流水の話は「ほんまかいな」「魚道とは何をやる所かいな」と思うところであります。私ども下流(南浜漁協)梁二ヶ所は県条例の定めと上流との協議において5月・6月・7月・8月は毎月15日に一回梁の取り払いを行い、魚族を上流へ遡上させているところであります。そして、その取り払いの時上梁の川底に沈殿している泥はものすごい量になっていきます。川原の石が覆いつくされて見えないほどであります。今年4月以降大した流量と濁水になったことはないのに、数年来の工事による土砂が姉川水系上流から下流までに堆積していると考えております。

姉川水系高月川を現地視察された中で見落としと見逃しの部分が余りにも多くあり、ここに写真を添えてお送りします。マスコミ等でよくダム建設に関する問題だけが取り上げられ、全ての人の目がそこに向けられる中で、そこへ行くまでの過程における道路・橋梁等による工事において多くの問題が生じ、丹生ダムについても平成6年当時より道路工事が着手され、その時々とその担当者による説得工作により次々工事に同意し、水系全体が昔の川と違って増水の時の濁度は大変なものになっている中で漁業を為しているところあります。先にも述べたとおり巨費を投じてから今回の話(ダム不用・廃止論)は私ども下流漁業権者には甚だ迷惑な話であります。姉川ダム建設より丹生ダム建設・関電の道路工事・県の河川道路工事、その前は木之本・高月町の産業廃棄物処理、挙げ句に頭首口による流量の全量に近い取水による問題があり、また頭首口の取水によりその下流はしばしば瀬切れとなるため、その間に上流部において工事が行なわれると増水の時その土砂が大量に流れ込んでくるものと考えます。

3/30、京都・国際会館での意見発表の時にも申したとおり、古来よりびわ湖へ流入してそのびわ湖の水の代謝の役割を果たしてきたびわ湖周辺の大きな河川の殆どが、ダム以前に頭首口による取水で流量を取られ、びわ湖へ流れ込む時は農業排水となり農業と肥料・シルトの小さな泥とになって流れ込むと考えています。6/4の写真にもあるとおり、高時川本流に水はなく農業排水の川にのみ流量豊かに流れる現況を考え直さないとびわ湖の復活はあり得ないと思えます。頭首口の取水で、夜間は田圃に取水をしないのに夜間で

も頭首口では取水はそのままという現状を考える時、同じ農業水利でもびわ湖よりの送水についてはバルブ式に変わっているところもあり、頭首口用水についてもびわ湖一帯バルブ式に変え必要な分を必要な量だけ取るようにするのが当然であると思うところです。古来より米は日本人の主食であり農業は大事であることは言うまでもありませんが、農業近代化における水利政策をびわ湖においては最優先課題として見直すべきではないかと考えます。

数年間、ずーっと濁水だけ受けてきたことに怒りを覚えるものであり、私どもの職場である河川・びわ湖を汚し続けたことにより漁家経済を圧迫しているとしか言いようがないと思います。